

大阪教区重点プロジェクト 組「葬送儀礼」研修会 開催要項

「重点プロジェクト」は、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画に基づき、具体的な実践目標を定め取り組むものです。

変化の速度が著しい時代状況の中、宗門が「重点的」に取り組むべき社会的課題も変化します。変化する時代状況を踏まえ、社会への具体的な貢献をめざし、年限を決めて実践されるのが「重点プロジェクト」です。

大阪教区では、2012(平成24)年度より重点プロジェクトの実践目標に「葬送儀礼」を掲げて取り組みを進めております。第1期(平成24年度～平成26年度)の3年間、達成目標の「葬儀の本来化を僧侶・門信徒すべての課題とし、浄土真宗における葬送儀礼の現代的意味を明らかにするとともに、時代に即した葬送儀礼を提唱し実践する」ため、意識調査や各研修会での学びを踏まえ、大阪教区独自の葬送儀礼全般を形にした寺院用テキスト『大阪教区重点プロジェクト「葬送儀礼」寺院用テキストー大阪独自の提唱ー』を作成いたしました。この寺院用テキストを基とし、今後さらなる「葬儀の本来化」に向けた取り組みを継続してまいります。

2015(平成27)年度より2017(平成29)年度の大阪教区における重点プロジェクト(第2期)は、引き続き実践目標に「葬送儀礼」を掲げ、「教区・組・寺院の共働可能な葬儀体系の確立」をめざして、寺院用テキストを用いてさらなる研鑽を深め、実践に向けた取り組みを進めております。

最終年となる本年度も、全組において組「葬送儀礼」研修会を開催してまいります。浄土真宗本来の時代に即した葬送儀礼の実践へ向けた取り組みを、共々に進めてまいりましょう。

- 1、目的 葬儀の本来化を僧侶・門信徒すべての課題とし、浄土真宗における葬送儀礼の現代的意味を明らかにするとともに、時代に即した葬送儀礼を提唱し実践する
- 2、名称 OO組「葬送儀礼」研修会
- 3、総合テーマ 結ぶ絆から、広がるご縁へ
- 4、開催期間 2017（平成29）年4月1日～2018（平成30）年3月31日まで
- 5、開催場所 組内寺院、教務所（別院）、その他
- 6、対象 僧侶・寺族（但し、必要に応じて門信徒・一般・葬儀社が参加して開催していただいてもかまいません）
- 7、講師 大阪教区実践運動推進講師（教区研修講師）、教区葬送儀礼研修会講師、本テキスト執筆者、または組選定講師（外部講師）
- 8、使用教材
 - ・『大阪教区重点プロジェクト「葬送儀礼」寺院用テキストー大阪独自の提唱ー』（冊子）
 - ・「後悔しない葬儀」（リーフレット） など
- 9、助成金
 - ①開催助成：1組 3万円（1回限り）※他の研修会との併催は認めません
 - ②講師派遣助成：大阪教区実践運動推進講師、教区葬送儀礼研修会講師、本テキスト執筆者を招請して開催した組へ3万円を交付（1回限り）
※講師は各組においてお手配ください（別紙講師一覧）

- 10、事務手続き
 - ①事務手続上、開催日から1ヵ月以内に組長印押印のうえ、教区へ「報告書」を2部ご提出願います。
※特に3月開催分については、開催後、直ちに教区へご提出願います。
※教務所にて受付日・確認印押印後、1部を控えとして組へ返却いたします。
※報告書は合同開催の場合も含めて、各組よりご提出願います。
 - ②開催日より2ヵ月を超えて交付申請のあった場合は、助成金は交付できません。
 - ③開催報告書は、毎年、書式を検討し若干の変更があるため、当年度配布分をご利用ください。

11、基本日程案 3時間設定

時間配分	プログラム	備考
10分	開会式（真宗宗歌・挨拶）	
10分	趣旨説明	組担当者など
30分	問題提起	講師
60分	話し合い（班別協議）	座長・記録
10分	休憩	
50分	全体協議（班報告・全体協議・まとめ）	全体協議：司会者 まとめ：講師
10分	閉会式（恩徳讃・挨拶）	

◆日程案を基本として、班別・全体を問わず、出来るだけ「話し合い」の時間を設定いただきますようお願いいたします。

※《12、研修ポイント》を設定していますので、設定の範囲で問題提起・話し合いを行ってください

12、研修ポイント

- (1) なぜ葬儀を行うのか
 - ① 僧侶を必要としない葬儀が増えているのは何故でしょう
 - ② 葬儀とは、そもそも何がどのような儀礼構造によって表現されたものなのでしょう
 - ③ 「葬儀規範」に定められている全ての勤行にはそれぞれどんな意味があるのでしょうか
 - ④ 「悲しみに寄り添う」ことと「み教えを伝える」ことはどう関連するのでしょうか
- (2) 葬儀における僧侶の責任
 - ① 葬儀における僧侶への不信や批判の原因はどこにあるのでしょうか
 - ② 遺族の要望と僧侶の願いの違いをどうすればいいのでしょうか
 - ③ 「葬儀規範」にある勤行、また通夜・葬儀での法話について確認してみましょう
 - ④ 各地域で大切にされてきた葬送文化をより大切にしながら、オリジナリティーのある葬儀（表白の作成など）の形を考えてみましょう
- (3) 「御同朋の社会」と葬送儀礼
 - ① 葬送儀礼における「いのちの尊厳」とはどんなことでしょうか
 - ② どのようにして葬儀社と連携・協力していけばいいのでしょうか（近年の葬儀の簡略化〈火葬式・一日葬・式中初七日など〉の課題を通して）